

昭和30～39年

1955～1964

復興の兆し、遺族会活動も盛んに



昭和31年、三重県護国神社の儀式殿立柱祭



立柱祭を奉仕する林宮司



昭和32年、旧軍人会館から九段会館へ

世相メモ
昭和32年
 予備役、後備役の軍人の収容・訓練の場として建設された軍人会館。昭和20年、連合軍に接収され、連合軍の宿舎として使用された。大蔵省（当時）との契約が成立した昭和32年7月には各県の婦人代表者による第1回婦人研修会が開催された。

昭和30年（1955）

8月 三重県護国神社第一期工事起工

昭和31年（1956）

3月 三重県護国神社第二期工事起工
4月 日本遺族会初の沖繩戦跡慰霊団を派遣

昭和32年（1957）

5月 旧軍人会館を借受け、九段会館が発足

昭和33年（1958）

10月 三重県護国神社御造営竣工奉祝祭
7月 五代目県遺族会長に齋藤昇氏（参議院議員）

昭和34年（1959）

3月 千鳥ヶ淵戦没者墓苑竣工

昭和35年（1960）

4月 三重県遺族会青年部結成、初代部長に加藤祐一郎氏
7月 二代目県遺族会婦人部長に堀江祥子氏

昭和36年（1961）

10月 三重県遺族会、護国神社に国旗掲揚台を奉納



昭和33年、三重県遺族会長に就任した齋藤会長

世相メモ
昭和33年
 この年、「美智子さん」が皇太子妃に決定し、ミッチーブームが起る。プロ野球巨人軍の長嶋選手が新人王を獲得。また、世界初の海底トンネルである関門トンネルの開通、高さ333mの東京タワーの完工など、めざましい戦後の発展の中を明るい話題が飾った。



昭和35年、日本遺族会青年部結成大会に参加した三重県代表



昭和34年、超大型台風が伊勢湾を来襲



昭和37年、15周年記念式典



昭和36年、靖国神社の国家護持を祈願し集結

世相メモ
昭和34年
 東海地方を襲い全国的な被害をもたらした伊勢湾台風は、気象庁始まって以来の大型台風だった。死者、行方不明合わせて5041名にのぼり、被害総額は1152億円に達した。その一方で、この年から昭和36年にかけて稀に見る好況「岩戸景気」が日本経済を包んだ。



昭和38年、第1回全国戦没者追悼式参列三重県遺族代表

- **昭和37年** (1962)
 - 5月 青年部二代目部長に乙部一巳氏
 - 11月 県遺族会結成15周年記念式典開催
- **昭和38年** (1963)
 - 8月 第1回政府主催全国戦没者追悼式(日比谷公会堂)
- **昭和39年** (1964)
 - 5月 青年部三代目部長に西野武氏